

令和2年3月18日

～卒業生を代表して～

国際言語文化学科 田中 歩佳

令和元年度の卒業生を代表して謝辞を申し上げます。あいにく新型コロナウイルスの世界的な感染拡大のなか卒業式が中止となりました。たいへん残念な思いではありますが、卒業生を代表しまして感謝の気持ちを残したく思います。

今、卒業生の胸には学生生活の思い出が浮かんでいることと思います。日々の授業やサークル活動、学園祭や実習など、思い出深い出来事はそれぞれだと思えますが、東京成徳大学での4年間は多くの方々との出会いから様々な事を学び、充実した毎日であったと思えます。

私の学生生活を振り返ってみますと、多くのことに興味を持ち、挑戦し、目標に向かって一步一步、歩いていった四年間だったと思えます。

大学入学当初は、「韓国語に熟達したい」という漠然とした思いを持ち、先生方の研究室に走り、助言を求めに行くような猪突猛進の学生でした。しかし、多くの先生方や友人と出会う中で、視野が広がり、その他の言語や言語以外の分野にも興味を持つようになりました。それにより、以前より具体的に、「幅広い知識の修得」と、「多文化を表現できる言語レベルの取得」という、大きく二つの目標を持つようになりました。それに向け、検定試験合格や交換留学など細かな目標が定まり、それらに向かって着実に邁進できるようになりました。

また、より多くの知識を吸収し発信したいと考える中で、二か国への留学や、作文コンクールなど多くのことに参加しました。韓国・中国への留学では、言語学習に限らず、様々な国の留学生と交流し、異文化に戸惑いながらも、受け入れ、受け止めてもらうことの大切さを学びました。また、作文コンクールをきっかけに、「日中国際フォーラム」にも参加し、日中の政治・経済・環境・メディアなど多くの著名人の方々と交流しました。そこでは様々な知識と多角的な考え方を手に入れることができました。これらの経験は現在も様々な場面で役立っています。

しかし、前例のなかった二か国連続しての留学への挑戦や、全国的な作文コンクール参加において、苦悩することも多く、何度も心が折れそうになりました。そのような時には、先生方が親身に相談に乗ってくださり、時には叱咤激励して頂くこともありました。私が今こうして知識や経験を身につけられている

のは、熱意ある先生方に恵まれたおかげです。先生方には深く感謝申し上げます。

また、大学では素晴らしい友人に巡り合う事ができました。共に学び、悩みを共有できる友人達がいたからこそ、楽しく有意義な学生生活を送ることができました。お互いに支え合うことができた友人達には感謝の気持ちで一杯です。

本日を以て、私たちは東京成徳大学を卒業し、それぞれの道を歩んでいきます。これから先、困難に一人で向き合わなければならないこともあるでしょう。そのような時、この4年間で学んだ事や、何かに一生懸命取り組んだ経験が私たちを支えてくれるはずです。東京成徳大学で過ごした時間と、ここで出会った方々から教わった事は、今後の人生を切り拓いていく力になると思います。

最後になりますが、4年間に渡りご指導くださいました先生方、諸方面で大学生活を支援してくださいました大学職員の皆様、私たちの学修を支援してくださいました図書館司書の皆様、快適な学生生活のためにご尽力くださいました大学食堂や清掃等の職員の皆様、そして今まで温かく見守り、応援してくださいました家族に感謝を申し上げ、東京成徳大学の益々の発展を願い、謝辞と致します。

以上